
魔剣物語

グレンラガン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔剣物語

【Nコード】

N9951B

【作者名】

グレンラガン

【あらすじ】

ある一国の姫が、難病にかかり倒れた。その病気を治すには、賢者の石より生成出来る『命の水』が必要。賢者の石を手に入れるためには、遙か遠くに住む魔王を倒さなければならない。そして、魔王を倒すには使用者の命を削る魔剣をつかわなければならない。魔剣と魔王に恐れ、誰も立ち上がらない中、一人の少年が立ち上がった。死の魔剣を手にし、少年『ゼン』は賢者の石奪還任務に旅立った……

第0話『ウイン』（前書き）

初小説頑張りたいと思います。初めてなので、改善点など書いていただければ幸いです

第0話『ウイン』

《ある日》 「ふう、疲れた」右手に斧を持って左手で額の汗を拭いているのは、先ほど紹介した少年

「ジーク」だった。父にまき割りをやれと言われやっていたのである。

「かったり」。何で俺がこんな地味な仕事を…」と、愚痴を言っていると急に目の前が暗くなった。

「だ〜れだ」と陽気な声が聞こえた、

「……この村に若い女は一人しかいね〜じゃね〜か」軽くため息をつくと、目をおおっている手をどけて振り向いた。そこにはにこやかに笑っている女の子が立っていた。

「あちゃ〜、バレちゃた」と、茶色の長い髪をなびかせながら舌を出して頭をかきながら笑っていた。

「やっぱ「ミラ」かよ…」この子はこの村の数少ない女の子。村長の一人娘でジークの遊び相手でもある。

「で？なんかようか？」 「うん？ああ、今日収穫祭って言うのは覚えてるよね？」ジークはやつとのこと思い出したかのように

「……ああ！そんなのあったな」 「忘れないでよ。」 「わりいわりい、それで収穫祭がどうした？」ミラは呆れた顔をして

「あのさ、本当に覚えて無いの？」 「収穫祭じたい忘れてたw」 「……はあ」完璧に呆れはて表情ではなしはじめた

「今日の収穫祭は『ハンター』っていう職業の人たちがくるらしいよ」 「はんたあ？ケルビとかアプトノスとか激しく刈る奴らか？」

「ジーク、文字間違ってるよ…」 「刈る」じゃなくて「狩る」だよ…」 「お！本当だ！」 「ふう…あ、それでね『ハンター』って

職業はワイバーンという巨大な怪物と戦うらしいよ」ジークは興味なさげに

「へ〜」と軽く返事をした。ザワザワ…村の中心で人たちが集まっ

ていた。ジークは立ち上がり目を細めて

「んゝ、なんだありゃ？」

「あの人たちだよ！ハンターって！」ミラは目を輝かせて指さした。指の先には鎧を着て背中かなり大きな剣を背をつけている人や小さな剣を持った人、これまた大きな銃を背負っている人たちがいた。

「かつこいいねゝ」と、ミラは喜んでいたがジークは顔をしかめて「……アイツらホントにワイバーンって言う化け物倒せるのか？」

たしかに強そうな防具や武器を持っているが、そのハンターが装備してる防具は全て新品同様にきれいだった。

「アイツら化け物と戦って無傷だったのか？」ミラは少し考えてから「多分…今日のために新しいの買ったのかなゝ」「そうだとい

んだけどな…」なぜか嫌な予感がした。《夜》

「……と、言うことでこの村に近づいてくるモンスターを討伐してくれるハンターのかたがです！」中央広場に集めた村人の前でミラの父親の村長が台の上にたち、ハンターの紹介をしていた。「…

……なげゝ」話が始まって一分とたたずにジークはもうあきかけていた。その時村長のあがつていた台にハンターの中でもリーダーっぽいやつが台に立った。「我々が来たからにはもう大丈夫だ！！

プロローグ

この世界は、人間、エルフ、魔属の三種属の住む惑星である。

それぞれの種族には大きな特長があり、『エルフ』は、知識が豊富で魔術を操る事が出来る種族。

耳が長いのも大きな特長のひとつ『魔属』人間やエルフの数十倍の力を持ち、身長も大型である。額に角が生えている者は魔属の中でも、ずば抜けた力を宿している。ほとんどの魔属は、肌が黒い。

『人間』エルフ、魔属の真ん中くらいの能力を持ち合わせている。感情、思想が一番深いと言われている。この話の主人公達が探している『賢者の石』というのは、無限の魔力を秘め、石の欠片のある特殊な調合をすると、万病の薬『命の水』を生み出す事が出来る。

『魔剣』とは、持つものに絶大な力を与える。身体能力の向上、魔剣の斬撃で切れない物は無い、力を込めれば衝撃波がとんでいく。他にも様々な能力があるが、魔剣には最大の欠点がある。それは、使用者の体を蝕み、使い続ければ一年も命がもたない。城に存在する機関『フォーカード』とは、ダイヤ、ハート、クローバー、スペードの4つに分かれた戦闘専門部隊。何処の部隊か、位等を知るために、隊員の肩にはそれぞれのマークが描かれている。ハートの隊員を例にとると、一般兵は白いハートマーク。一般部隊長は赤いハートの四文の一のマーク。副隊長は半分の赤いハートマーク。隊長は赤いハートマーク。と、わけられている。0話で現れた女性は一一般部隊長である。主人公のマークはスペードの半分、副隊長である。

一話『魔女?』（前書き）

ちよい中途半端な終わりになってしまいました

一話『魔女?』

《平野》

「・・・レナ待つてろ。必ず助けてやる・・・」遠くにそびえる城を見ている少年『ゼン』が立っていた。トゲトゲの髪に、黒い衣服を身にまとい、背中には大きな黒紫色の剣を背負っていた。

「レナ・・・いや、姫。行って参ります」ゼンは城に背中を向け、賢者の石を探しに行った。それから最初の目的地を目指し、山を五つこえ川を三つほど越えた。《最初の目的地 崖に立っているボロボロの家》

「どうにか着いたか。ここに魔王の住みかを知るエルフが・・・」ゼンは手に持っている紙を見ながら場所を確認していた。紙に書かれた内容は「大陸の端の崖に住むエルフに会うこと。P.S. 正直ワシも行ったこと無いんでよくわからん。」と、下手くそな場所の絵が書かれていた。ゼンは紙を丸め、投げ捨てた

「ったく、もうちょっとまともな情報は無いのか?・・・」深いため息をして、ゼンは扉をノックした。

「用事がある、開ける。」すると扉は勝手に開き、家の奥の方から赤い丸まっていたカーペットが、こちらに転がってきた。『おはいりなさい・・・』静かな声が家の奥から聞こえてきた。こんな不気味な状況でも、ゼンは顔色一つ変えずにスタスタと中に入っていた。家の中は外から見たまんまのボロボロであった。カーテンは破れてあり、床は所々穴が空いてあり、何より先ほど入ってきた扉が、音をたてて倒れてしまったのである。辺りを見渡していると、奥のボロボロの扉から、三角帽子にツギハギだらけのマントをはおったヨボヨボの老人が現れた。

「お前さん、ワシの情報が欲しいだろう?」あごひげをさすりながら聞いてくる老人を見て、ゼンは苦笑した。

「・・・お前、それで化けたつもりか?」それを聞いた老人は、急

に先ほどの落ち着きを無くし、

「な、何をいつているのかの？」ゼンは足元にあった石を拾い、老人に向かって投げた。すると、石は老人のスネに当たった。すると、

「いったあああああ！」ヨボヨボ声から急に少女の声を出してしまい、

「あつ！ヤバ！」

「・・・いい加減そのマスク外したらどうだ？」それを聞いた老人はおもむろに顔の皮を引っ張ると、老人マスクが外れ、茶髪の女の子が現れた。女の子はゼンを指差し

「アンタなかなかやるわね！よく私が変装してることに気が付くことができるなんて！」ゼンは女の子の下半身を指差し

「ジジイがミニスカはくか普通」やっとそれに気が付いたらしく、ホホを赤らめながら

「ま、まあハンデよ。そ、それより！アンタ魔王の城の場所知りたいのよね？」ゼンは不満そうに聞いた

「なんで老人なんかに化けていた？」すると女の子は暗い顔をして

「・・・だって、子供だと誰も相手してくれないんだもん。って、そんなことより！場所知りたいの？知りたく無いの？」

「ああ、知りたい。そのために此所に来たんだ」少女の顔は急に明るくなり、

「じゃあさ、じゃあさ！教える代わりに、頼み事あるんだけど・・・」ゼンはため息をして

「そんな暇ない。早く教えろ。」それを聞いた女の子は、腕を上げ、指を鳴らすと、大きな音と共に地面から巨大なロボットが現れた。

「お願い！頼み事聞いて！さもないと、このゴーレムが貴方を襲うわよ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9951b/>

魔剣物語

2010年10月11日01時37分発行